

「語ろう！つくろう！支え合いの“ふるさと匹見”～防災の視点から～」
益田市匹見上公民館

1 匹見上地区の概要

県の西端に位置する益田市は温暖な地として知られているが、匹見上地区は中心地から約40km南下した中国山地西南端部に広がっており、標高約270m、県内でも有数の豪雪地を抱える冷涼地である。

この冷涼な気候を活かして江戸時代からワサビ栽培が行われ、昭和50年代には「東の静岡、西の匹見」と言われるほどの生産高であった。しかし近年、後継者不足により生産量は激減。現在、UIターン新規就農者対策によって僅かではあるが栽培面積の持ち直しが見られ、「匹見ワサビ復興」を目指して取り組んでいるところである。

面積は約154km²、人口696人、高齢化率58.9%（2018年12月現在）であり、広い面積の中に谷筋ごとに集落が点在する中山間地の過疎地域であるが、地区内を流れる匹見川の美しさには定評があり、西中国山地国定公園に指定されている景勝地、表匹見峡、裏匹見峡を含んでいる。鮎・ヤマメ・イワナなど川の恵みを活用した食文化が受け継がれ、特に鮎は絶品である。塩焼き・せごし（刺身）・なます・うるかの他、干し鮎の出汁でつくる正月の鮎雑煮が食卓を彩る。ただ、若い世代がこうした伝統食に触れる機会が少なくなっているため、継承に向けた活動が求められる。一方、夏の川は今の子どもたちにとっても楽しい「遊び場」である。子どもたちはこの地ならではの地域資源である清流に親しみながら、自然の中で危険回避能力を身に付けている。

保育所・小・中学校はいずれも小規模で、それ故に連携した活動や地域住民との交流を

通して異年齢・多世代活動に取り組んでいる。

2 事業の趣旨

中山間地の高齢化率の高い超過疎地である当地区にあって、防災を意識した「支え合いの地域づくり」は最優先課題であり、日常的な住民同士の助け合いや支え合いの実現が求められる。その実現を目指して住民同士、専門機関と住民、行政と住民が対話しながら自主活動を築き上げていくことで、他人任せではなく、各機関と力を合わせて自ら動き、さらに次の動きを見出すことができる地域リーダーの育成に努めた。

3 具体的な取組内容

① みんなで語ろう！

対話による、課題・自主活動の発見と共有

② みんなで発見

地域リーダー研修として、地域住民と小学生が地域を一緒に歩くことで危険個所を確認・伝承する

③ みんなで経験-まさかの時にも美味しいご飯-

保存食・伝統食を学ぶ

④ みんなで知ろう 匹見の防災 防災用具についての学習



(みんなで語ろう！ 月1回の定例会)

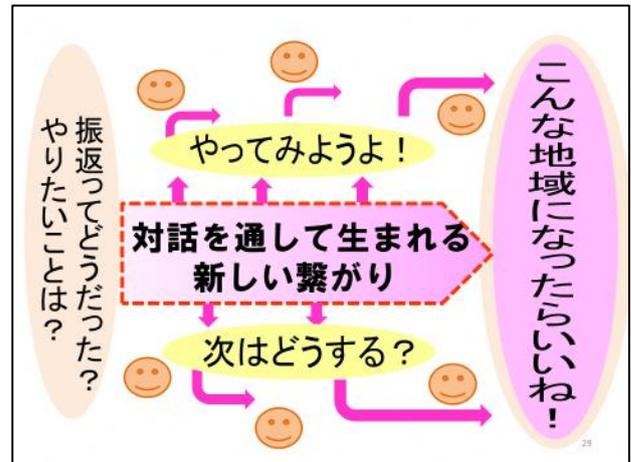
4 評価と成果

- (1) 住民の活動意欲の高まりへ向けて
- ア 参加率を上げるために
- (ア) 既存の事業に防災の内容を追加。
 - (イ) 子どもたちを中心に据えた活動内容にする。
 - (ウ) 新しい繋がりを生み出すためにいろいろな立場の人が一緒に活動できる内容とする。
 - (エ) 公民館事業に参加して集めたポイントが400円の地域商品券と交換できる「生き行きポイント制度」の活用。
 - (オ) 4つの連合自治会がある広い面積をもつ地域であるため、連合自治会単位での取組を行う。
- イ 住民の自主的な繋がりを生み出す
- (ア) 住民同士、専門機関と住民、行政と住民が対話を通して課題と自主活動を発見・共有する。

- (2) 住民による自主活動の始動
- ア 「まちあるき探検」の対象地であった三笹連合自治会の事業後の動き
- (ア) 消極的であった地区の高齢者サロンで声が上がリ、防犯教室や消防座談会が開催された。
 - (イ) 連合自治会として、安心できる地域づくりを目指した「地域住民と語る会」を開催。
- イ 次世代育成コーディネーターの活躍
- (ア) 小・中学生に「みんなで学ぼう 伝統食・保存食」への参加の呼掛け
 - (イ) 中学生が、自分たちで考えた取組みを地域で行う「匹中会」の結成・活動支援⇒防災事業への方向づけ
- (3) 活動を牽引・支援する地域リーダーの誕生
- ア 地域自治組織設立準備委員会と公民

館活動の連携

- (ア) 「自分たちの住む地域が“住んでいて良かった”と思えるにはどうしたよいか」を考える場である委員会の中で、対話を重ねることで防災を視点とした支え合いの繋がりがづくりに向けた活動を形づくり、活動を牽引・支援するリーダーが誕生



(活動の重点項目)

5 今後の課題と見通し

公民館と月1回の定例会を開いている地域自治組織設立準備委員会が連携することで、「防災」という地域の課題とその解決に向けた自主活動をより広く住民と共有することができた。委員会の中で地域住民がもともと日頃から抱えている「より良い地域への願い」を語り合うことで委員自らが課題に気付き、活動を振り返りながら互いに「想い」を醸成することで、地域リーダーとしての動きを担っていただけたように思う。来年度に予定している地域自治組織設立後も公民館との協力・連携を深め、対話を通して住民自らが地域の絆を深めるための活動を生み出していけるよう、人材の育成に取り組んでいきたい。

(文責：主事 田代祐子)